

令和5年度子ども家庭庁「こどもデータ連携実証事業」の本市の採択について

子ども家庭庁が募集をしておりました標記実証事業について、この度、本市が採択を受けましたので、ご報告いたします。

1 事業趣旨

近年、虐待、不登校、ヤングケアラー、貧困等、子どもを取り巻く環境がますます厳しさを増す一方、困難を抱える子どもや家庭ほど SOS を発することが難しいことから、プッシュ型支援の重要性が指摘されている。

それらを背景として、国においては令和4年度から、自治体内外において分散管理されている子どもや家庭に関する福祉、保育、医療、教育等のデータを分野を超えて連携・分析することにより、潜在的に支援が必要な子どもや家庭を早期に発見し、プッシュ型支援につなげる取組の推進を図ることとしているが、その実施に際しての、データの項目や制度面を含めた課題等を整理するため、モデル的に事業に取り組む自治体を募集していた。

この度、令和5年度事業において、本市を含む9つの新規自治体と、5つの継続実施自治体が採択され、5月末に公表される予定との通知を受けたところである。

2 事業概要

市、(一社)九州テレコム振興センター、NEC ソリューションイノベーター(株)等が連携し、データ分析システムを開発し、以下の通り事業を実施する。

①システムによる分析(一次絞り込み)

今回、開発するシステムにより、福祉、保育、医療、教育等の各種データを連携・分析し、困難にさらされている可能性のある子どもや家庭の絞り込みを行う。

②関係機関による支援方策等の検討(二次絞り込み)

一次絞り込みの結果を受けて、市、学校等の関係機関により、実際にプッシュ型支援によりアプローチする子どもや家庭を絞り込み、支援方策等の検討を行う。

③アプローチ・支援への接続

二次絞り込みの結果を受け、実際の子どもや家庭へのアプローチや、支援方策への接続について検討する。

3 本事業で取り組む困難の種類

虐待、不登校、ヤングケアラー、貧困、産後うつ、発達障がい

4 留意事項

本実証事業におけるデータの連携・活用にあたっては、個人情報の取扱について、各種法令、本市個人情報保護条例、本市セキュリティポリシー及び国のガイドラインに十分留意する。

5 事業規模

79,968,900円

※今後、国による調整が入る可能性がある。

※事業費は直接システム会社に支払われるため、市の予算計上は不要。

連携するデータ項目及び関係課・団体

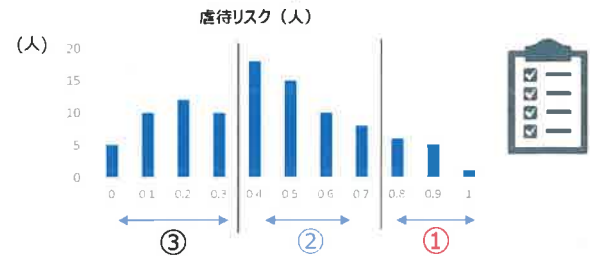
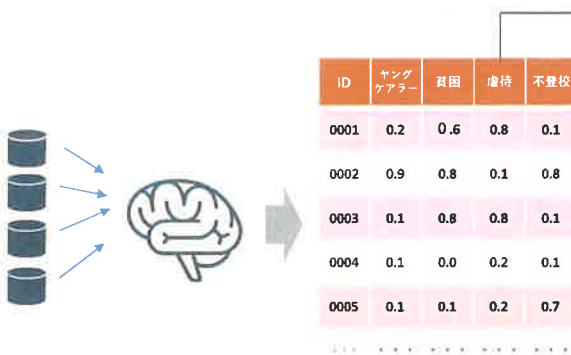
※ 現段階ではあくまで予定データ項目であり、利用の可否等については実証事業の中で検討していく。

データ名	データ概要	データ管理主体		データ形態
住基情報	市民の「氏名」「住所」「年齢」「性別」等の基礎情報	市民課	延岡市	CSV
生活保護受給状況	生活保護受給者に係る情報	生活福祉課	延岡市	CSV・紙台帳
保育施設入所状況	保育施設入所者に係る「氏名」等の基礎情報	こども保育課	延岡市	CSV
保育料納付状況	保育料の納付額や滞納状況に係る情報			CSV
母子保健検診情報、訪問情報	母子保健に係る定期健診に係る結果や保健師等による訪問面談記録情報	おやこ保健福祉課	延岡市	CSV・テキストデータ
児童手当受給情報	児童手当の受給状況に係る情報			CSV
児童扶養手当受給情報	児童扶養手当の受給状況に係る情報			CSV
子ども医療費助成情報	子ども医療費の受給状況に係る情報			CSV
ひとり親家庭医療費助成情報	ひとり親家庭医療費助成の受給状況に係る情報			CSV
児童相談状況情報	虐待や貧困等の児童相談に係る各種情報			テキストデータ
エジンバラ産後うつ質問の回答情報	質問の回答内容			CSV
障がい児・障がい者情報	障がい者手帳の交付状況等に係る情報	障がい福祉課	延岡市	CSV
就学援助情報	就学援助（物品購入等）に係る受給情報	学校教育課	延岡市	CSV
相談状況情報	本市が開設しているなんでも総合相談センターに寄せられる相談情報	なんでも総合相談センター	延岡市	テキストデータ
基本名簿情報	各学校における児童の在籍情報	各学校	延岡市	Excel
出席状況、遅刻・早退状況情報	各学校における出席等の情報			Excel
成績情報	児童の成績情報			Excel
検診、歯科検診情報	児童の健診受診及び結果に係る情報			CSV
保健室来室状況情報	児童の保健室利用に係る情報			紙
子どもの見守り状況情報	外部団体による子どもの家庭訪問や日用品の支給状況に係る情報	おやこの森、NPO法人陽の環、子どもネットワークのべおか	外部	Excel・紙
高齢者の見守り状況情報	子どもと同居する高齢者の家庭訪問に係る情報	地域包括支援センター	外部	Excel・紙

支援方策の検討方法・体制

①統合・連携システムによるリスク予測
(一次絞り込み 前半)

①-2 予測結果の活用検討
(一次絞り込み 後半)



■リスク予測

各種データを連携させ、世帯ごとに子どもがさらされている可能性のある困難（貧困、虐待、ヤングケアラー、不登校等）をAI分析し、可視化する。

■実施体制（参画事業者）

(一社)九州テレコム振興センター
NECソリューションイノベーター
日本電気、日本アルゴリズム

■予測結果の分類（案）

個々の子どもや家庭について、スコアごとに対応内容により分類することで、予測結果により有効性を持たせる。

- ①潜在リスクが高いグループであり積極的なアプローチによる支援を実施
- ②潜在リスクが中程度のグループであり、学校等への調査を実施
- ③潜在リスクが低いグループであり、積極的な介入は行わない

■実施体制

おやこ保健福祉課、情報政策課

②予測結果による支援の検討
(二次絞り込み)

③アプローチ・支援への接続

結果の評価



■関係機関による支援方策等の検討

- ・ 一次絞り込みにより得られた予測結果から、実際にアプローチする子どもや家庭の絞り込みを行う。
- ・ アプローチする者、支援方策等を決定する。
- ・ 必要に応じて、保育施設や学校内の関係者、外部団体等にも調査を行う。

■実施体制

おやこ保健福祉課、学校、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、外部団体等

■アプローチ・支援

- ・ 二次絞り込みにより得られた検討結果から、実際に子どもや家庭にアプローチを行い、支援方策への接続を行う。
- ・ 必要に応じて、外部団体にアプローチを依頼する。

■実施体制

おやこ保健福祉課、学校、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、外部団体等

■評価

- ・ 実施した支援策について、その結果について評価する。
- ・ スコア毎の対応内容について、検討する。
- ・ 実施結果について、データ入力モデルの再学習に活用。

■実施体制

おやこ保健福祉課、情報政策課